

郷土を愛する人々の雑誌

神戸っ子

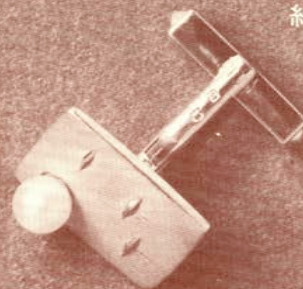
magazine kobekko
october 1966
no. 66

10



神戸っ子 昭和四十一年一月二十日 三神製本所印刷
昭和四十一年九月十五日印刷 通巻六十六号 昭和四十一年九月十五日発行 毎月一回十五日発行

シンプルで
シャレているデザイン
ミキモトパール
格調高い紳士の
必需品の一つです
紳士の晴れの
装いに
いちだんと
風格を
そえます



御木本真珠店

神戸店＝三ノ宮・神戸国際会館

TEL. 22-0062

大阪支店＝堂島・新大ビル

TEL. 363-0247

京都＝ミキモトパール京都

TEL. 54-8171

都ホテル・京都ホテル・京都国際ホテル

大阪高島屋・阪神百貨店

★本店＝東京・銀座四丁目

これは神戸を愛する人々の手帖です あなたのくらしに楽しい夢をおくる

神戸を訪れる人にはやさしい道しるべ これは神戸っ子の心の手帖です



W. I. M. Take



★ RESTAURANT **PALL MALL**

本格派のレストラン“PALL MALL”の誕生
です KOBEの素晴らしさをここにあつめまし
た ゴージャスで潇洒な雰囲気です
神戸っ子にふさわしい気のおけないところで
PALL MALLで最高の味覚を満喫いただきた
いと思います お酒とご食事を心ゆくまでお
楽しみ下さい

PALL MALLは新鮮な魅力にあふれる夜の社
交場です

★ **AT LAST** ★
10月1日オープン

神戸市生田区三宮町2丁目18 阪神相互ビル地下1階 TEL(39)8880

■ PALL MALLは年中無休、昼は軽食・喫茶を営業しております。

苗く

中島節子

カメラ／春田佳章
書／山路 梓

乳白色の画面はあくまでも静かだ。しかし、油絵のウスイ仕上げの下に、大胆な構図で、しっかりとした人体デッサンが、走る線で激しい動きをみせて沈んでいる。淡い、地味な色調は女性的な優しさ、もうい甘さはみあたらない。「私の絵は、色のない絵です」と話す中島さんはこの十年ほど人体を描きつづけている。

大正十四年、北野町で生まれ神戸山手学園を卒業後、小磯良平師に学んだ戦中派の女性作家。一昨年新制作協会々員に推され、今まで二人展かグループ展の発表しかなかった中島さんが今年は、七月十八日から一週間、大阪梅田画廊で、個展を開き充実した確かな腕を見せた。

カメラを向けると「はじめてあった人はどうもキライで」と照れた恥かしそうな顔になった。戦中派の人のみがつ、照れや、の姿に今も独身で絵にうちこむ純粋さが初々しく感じられた。化粧つきの清らかな顔の下に何げなくひめられている、激しい絵への情熱が画面にびんと張りを見させているようだ。

〈観音寺の中島さんのアトリエで〉



世界の宝石の名品！
確信をもってタジマの目を選んだ



Tajima
タジマ

*** 宝石店 元町2丁目〈山側〉TEL ☎ 0387・2552

タジマの特典 当店でお買上でのダイヤや指輪は販売価格で引取り交換をお約束しております

神戸っ子アングル

イサキ

向井修二

〈具体美術協会々員〉

カメラ / 春田佳章

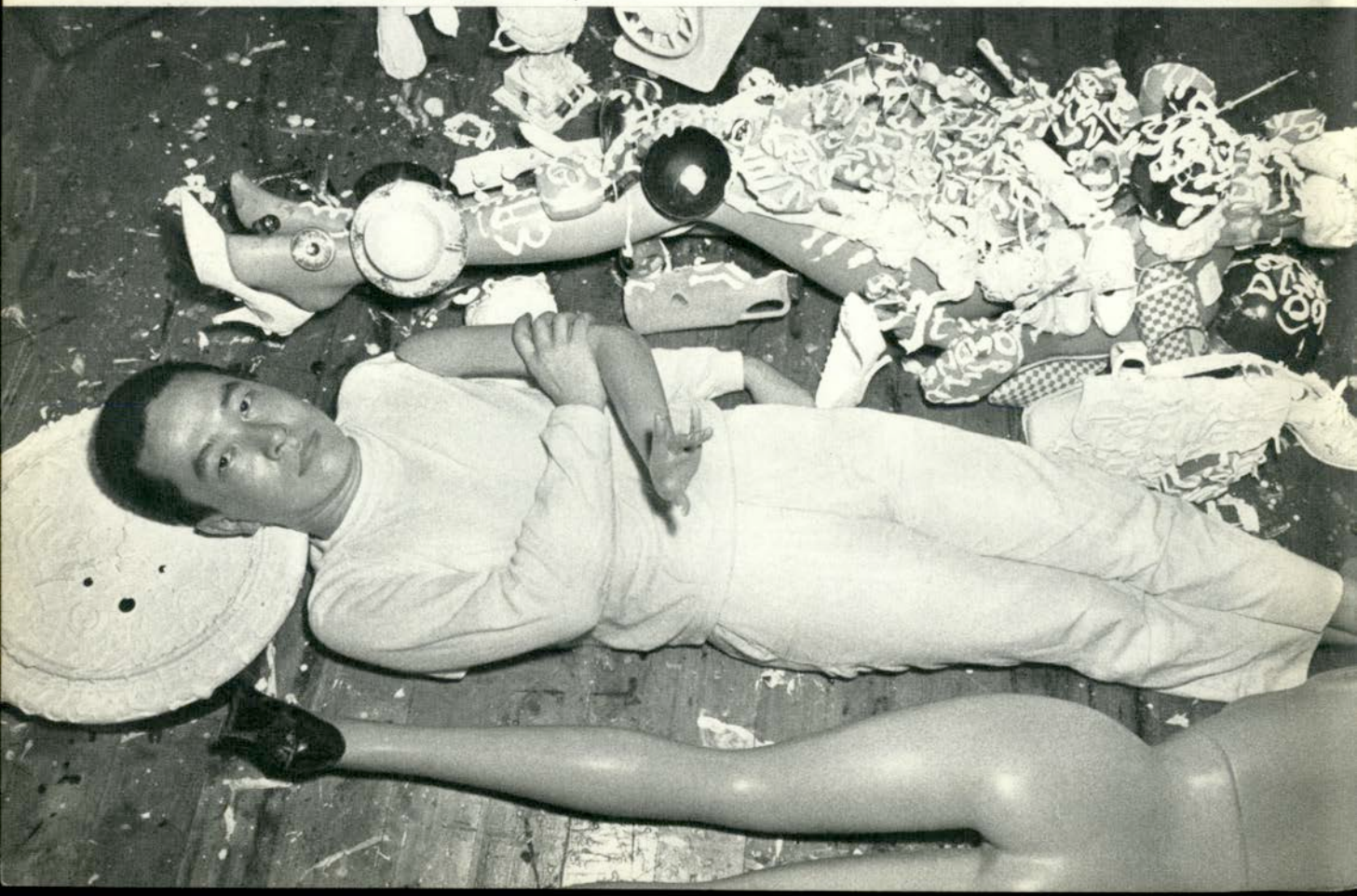
書 / 山路 粹

「ぼくの絵は、ぼくの思想の排泄物なんや。出来あがった作品は、その瞬間から古いものになってゆく。」

芸術家の仕事は観念をかえてゆくことやと思う。」

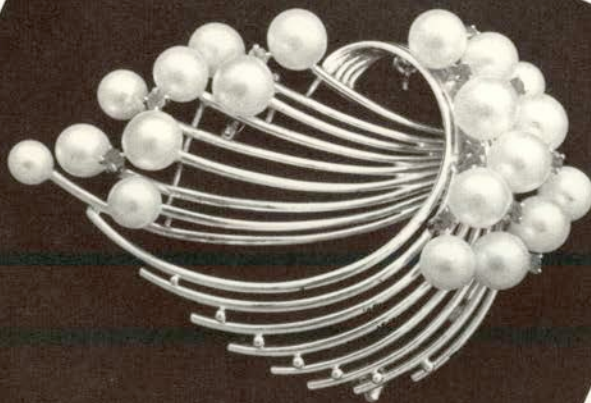
向井修二君は1939年生れの生粋の神戸っ子だ。大阪美術学校を卒業してから、吉原治良氏の具体グループのなかに飛びこんだ。そしてモダンジャズの好きな現代青年は音の世界から、○×の記号をモノクロの色調で即興的に画面をうずめつくしてゆく独自の道を開いた。記号は今や画面からはみだして、部屋のなかのテーブル、椅子、ラジオ、洋服、テレビ、トースター、時計、ミシンはては自動車にまで繁殖してしまった。それは物質主義の現代に生まれた排泄物的絵画ともいえよう。今年の1月20～21日の「現代美術の新世代展」では25才～35才までの21人の新人作家が国立近代美術館で作品をひろうした。向井君もその1人。「ぼくはプロだから」と絵のみで生活する姿勢はめずらしく小気味が良い。支持層は若い人。高年層が多い中間層には「なまいき」と文句がでるそうだ。しかし「平面」から「ものシリーズ」そして「大小の対象をなくする仕事」をしたいという限りないエネルギーに新しい可能性が楽しみな作家である。

〈向井君のアトリエにて〉



Pearls by Tasaki

T.



優雅な美しさをそえる
タサキパール

田崎真珠

三 宮 店・神戸新聞会館秀品店内
本 社・神戸市黄合区旗塚通6-9



夏のなごりを惜しむ太陽の輝きが、画紙に白く反射する。秋の風がそつとほろをなで空は白くさわやかだこ二須磨離宮公園の西にある市立北須磨小学校の庭にはあさがおをはじめ、色とりどりの花々が咲き乱れて長方形の池にはかわい水蓮の花がのどかなたなまをみせている。ほうずきの実が風にゆれて池の壁も涼しげに夏を楽しんでいる花鳥風月を題材とする日本画のグループ「ちぬの会」の面々がそれぞれ思い思いの対象物の前に腰をおろし黙々とスケッチに取組んで

ある集い
→ ちぬの会 ←
(日本画グループ)
↑

いる。日本画愛好者のグループ「ちぬの会」は昭和四十年に発足したばかりだがこの一年間に三回展覧会を開くという熱心さ。学校教員、主婦、会社重役、画家とメンバーの顔ぶれは多彩だが、日本古来の写実画風に身も心も打ち込んでいる。写真は左から昇外義(日本画家)、石井肇(親和女子高校教諭)、平内恵美(主婦)、本田善一(会社重役)、青木清子(入江小教諭)、堀橋淳子(主婦)、松永隆雄(日本画家)。

autumn collection



《パリー直輸入》新着モードの

ムラタ

秋の展示会!!

*ぜひご来場下さい

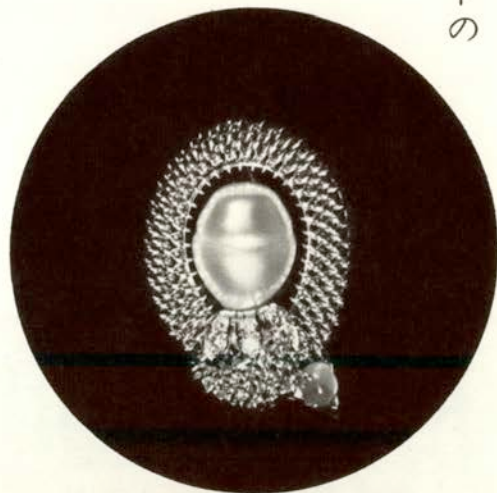
気品にかがやくムラタパール……

ゴージャスな毛皮は

優雅なおしゃれをお約束します

●とき 11'66 10月14日(金)・15日(土)

●ところ 11 神戸ニューポートホテル3階ホール



村田*真珠/銀座山岡*毛皮/舶来婦人服飾



ムラタ

さんちか*レディスタウン・TEL 39-3886-7

10

月号目次

1	Second Cover / 津高和一
3	グラビア / 神戸っ子ファンタム・描く 撮影・春田佳章 / 中島節子・向井修二
7	グラビア / ある集い・「ちぬの会」 わたしの意見 / 田中寛
11	随想 / 神戸紳士はスマートケチでいこう・名村喜久江
12	随想 / 神戸のわがまま紳士・真野さよ
13	随想 / 神戸の文化をすすめるキャンペーン 官僚主義排除の美術館運営を・小島輝正
14	夢の美術館・白髪一雄
16	ある集い・その足あと・石井馨
19	随想・神戸の男・女・寿岳文章
21	随想・神戸の男性・梁雅子
22	随想・神戸の男性・田辺聖子
27	神戸っ子対談 / 乾豊彦・樽本久
31	経済ポケットジャーナル 神戸ドキュメント ⑨血液センター・有井基
33	神戸の集いから
39	CINEMA ③ / 淀川長治
40	KOBE'S SHIP LONTIGE ③きく人 / 玉泉章
42	動物園飼育日記 5 / 亀井一成
44	れんさいまんが ⑧・ベッコ / 永井文明
46	マドモアゼル神戸 / 福富芳美
50	特集 / GENTLEMAN OF KOBE
55	神戸のおしゃれ紳士をさぐる・明治編
56	神戸のおしゃれ紳士をさぐる・現代編
63	推理作家対談 / 「男の幸福を求めて」 堀山季之・陳舜臣
71	ING コーナー
87	神戸遊戯誌 ⑥・卓球ハ2 / 青木重雄
88	神戸うまいもん巡礼 No. ⑥ / 赤尾史子
90	ポケットジャーナル
92	異人館物語・連載第三話小泉八雲と神戸 ①小山牧子
98	連載小説第八回 / 兵庫の女・武田繁太郎
108	PHOTO POEM・無言歌
113	詩 / 鈴木漢・カメラ / 緒方しげを
116	グラビア / 神戸銘店抄・赤根和生
	表紙 / 小磯良平・カメラ / 米田定蔵・赤松慶三郎
	レイアウト / 中辻悦子





のときを
いとるイッ菓子の
憩ひ飾ド伝風味

バウム・クーヘン
ビスケット
キングケーキ
フランクフルター・克蘭ツ



ドイツ菓子

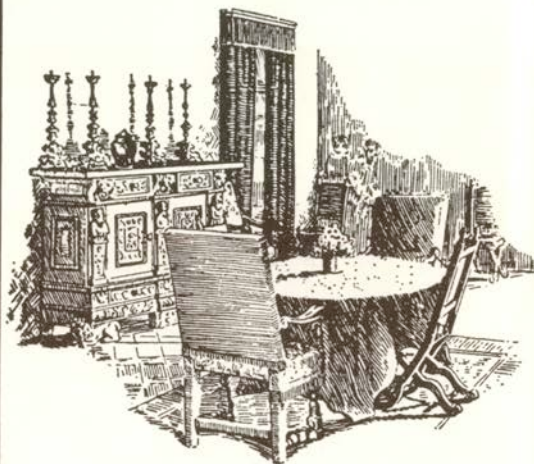
Faehreim's

ユーハイム

東京/銀座店・渋谷店 その他全国有名百貨店

本店 神戸三宮生田神社前
TEL (33) 1694・8064
三宮店 神戸大丸前市電筋
TEL (33) 2101 (39) 3808
さんちが店 三宮地下街スイーツタウン
TEL (39) 3 5 3 9

家具・室内装飾・工芸品



永田良介商店

大丸前 TEL { (39) 3 7 3 7
3 7 3 9

〈わたしの意見〉

親しまれる
兵庫陶芸館に



田中 寛

〈全但観光KK社長〉

——文化の秋にふさわしく、兵庫県陶芸館（全但会館五階）が十一月下旬に開館されるという嬉しい話題ですが？

「私、三年半、糖尿病をわずらいましてね。医大へ入院していたのです。その時人間はやはり後世に遺るような仕事をしなければと気附きましたね。ちょうど今年は全但バス五十周年にあたりますし、兵庫県下の古陶器を蒐めた民芸館を財団法人でつくることになりました。」

兵庫県下には明治の初期まで各地に窯元があつて、古丹波をはじめ立派な郷土陶器があります。古陶器をささやかだけれど一堂に蒐めるといふことは、ローカル色豊かな、文化教育、社会教育の一たんを果たすことに役立つのではないかと思うんですよ。」

——陶芸館の内容はどんなものですか？

「鎌倉時代より続いている古丹波を中心として、淡路の珉平焼、三田青磁、姫路の東山焼、出石焼、竜野焼など県下の古陶器を八百点。その他日本の瀬戸、越前、備前しがらき、とこなめなどの古陶器を二百点あわせて千点、二八四坪の展示室にかざられます。その他、参考館には日本の他地方の焼物や、その他の陶器類を随時、展覧する予定です。茶室と飛驒の白川郷の三百年程経た合掌造りをそのまま移した民芸室では心のふるさとを皆さんに見ていただきたい。また会議室なども設計されていますので簡単な集会にもご利用願えるでしょう。」

全但会館は県庁へ教育委員会との東隣りなので、ミナト神戸の土地柄にふさわしく、美術館の高踏的なふんいき、民芸館のげても的なふんいきの中間をゆく大衆的な親しまれる陶芸館に育てたいですね。まだ作品を蒐め初めてから三年しか経っていないのでこれからも郷土のうずもれた良い古陶器をさがしてゆくつもりです。

私は事業の方も、神戸から但馬へ行く汽車にのれない人々のために昭和二十三年に但馬ゆきの長距離バスを初めました。これは長距離バスの元祖。無線タクシーを初めたのも私のアイデアです。50周年を機会に利益をお客さまに還元して、兵庫陶芸館を通してふるさとの味をかみしめていただければと思います。」

□随想□

神戸紳士に望む

「スマート・ケチ」

でいこう

名村 喜久江

大阪読売新聞記者



現代の男性は、すべからずケチでなければならない。一晚のドンチャンさわぎに、自分の財布から、数万円もを雲散霧消させるような、心がけの悪さでは困る。ケチこそは、現代の美德であるからだ。

だが、そのケチの表現法にも、神戸紳士には、神戸っ子らしいスマートさを求めたい。大阪男のような「ドケチ」ではいけない。大阪野郎の戦法はこうである。

「いっぺん飲みにいきまひよか」と気軽に調子よく誘い、いっぺんも実現したことがないのがザラだ。(お前さんに飲ますくらいなら、キャバレーかカフェーにでも

いきまっさ、というのが本音だらうが――)

ものを頼むときは「やあ、やあやあ」と千年の知己のごとく近寄り、エエ知恵かりてしようたら、あとは「いずれ、すごいとこ案内しまっせ」と言っ放し。お茶でも飲む段になると「割勘やでえ」「アミダでいこか」と煙幕をはる。ギブ・アンド・テイクなんて、あほらしい。テイク・アンド・テイク。

エビもつけずにタイを釣るのこそドケチの元祖・大阪男の身上である。ケチがギラギラ表面に浮いているが、さりとして、憎みきれないのも、骨の髄までしみこんだケチ哲学のせいだろうか。それに比べて、神戸紳士たちののは、ちっともケチにみえないスマート・ケチ。

まず装いを見ると、パリッとした一流の布地、一流の仕立の服をまとっている。パカパカした既製服をきて、安もの買いのゼニ失いなどはしない。もちろんこれには値が張るが「さすがダンディー」と女の子たちに舌をまかせ、流行を超越して、何年でも着られるとなれば、それこそ二倍はお徳用というわけ。洗く、品よく、新鮮にみえるなら、布地や仕立に少しくらい投資しても、結局は割り安だ。

次はスタミナ源である。神戸のものは、どこへとびこんでも一応

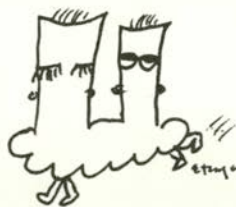
安心できる味だ。大阪より何割か安く、何倍かおいしい。これひとえに、神戸紳士たちのスマート・ケチの産物であろう。大阪男のように、家では安くてうまいものを食べ、外ではまずくて高いものに見栄をはり、食い倒れてしまうような、愚かしいケチはしない。食べるものの経済学と生理学と社会学とが、みごとにバランスがとれている。味にうるさく、値段に敏感な、つまりスマート・ケチの神戸紳士の舌が、安くて、おいしくて、見かけのステキな神戸の味を生んだのである。

神戸の町を歩いていると、スマートな男性が多いのに気づくはずだ。ブタの如き体軀や、針金に目鼻といった超貧相タイプに行きあうことは少い。そして外見ばかりか、その精神においてもまた、神戸オノコは、すっきりとスマートでアカぬけしている。バーや喫茶店では、飲ませて一丁モウケ話を――といったストリート組は少く預けておいた洋酒などチビチビなめながら、イカす女の子と、しゃれた会話をたのしんでいる。そのくせ、お勘定をたつぷりムシられるような愚はしない。これまた、神戸的なスマート・ケチの極意ではなからうか。

ミナト神戸の “わがまま紳士”

真野 さよ

作家



私がN氏にはじめてお会いしたのは、今から十年ほど前、新聞会館地下の喫茶店で、新聞社のM氏に紹介された。今よりずっと小生意気で、ざでであった私は、「東京から流れてきて三年になります」とあいさつした。そのとたんに「わたしは東京から流れてきて三十年になります」と、春の帽子をぬいで、N氏はおだやかな微笑とともにいわれた。頭のきれいに禿げた上品な老紳士であった。

その後数年間、仕事の上で月一回づつお目にかかる機会があったため、この、ミナト神戸随一の「快ボーイ」N氏と私はすこし近づきになった。

兵庫県短歌クラブの会長で、精粉会社の副社長で須磨に住むN氏

は毎夕会社がひけると、ほど近い自宅とは反対の方向にタクシーを走らせ三宮に出る。お米を一粒もたべないN氏は、そこで、キングスアームズなど、おきまりのバーで時を過ごし、お年にふさわしい宵の口に、またタクシーでさつとご帰館。それはもう判でおしたような規則正しさとときいた。その、月一回の会合のかえりに、国際会館地下のサントリーバーに何度かお相伴した。N氏はどんな近距離、たとえば道路を横ぎるためだけでも、かならずタクシーを使う。会館横手のきまった地点で車をとめさせ、ステッキ片手にエレベーターで地階におりる。その順路がいちばん、歩行の節約だという。

バーの止まり木で、N氏はウィスキー二杯、飲めない私はビール一杯、特別の話は何もないが、なししろ多読博識、月々の文芸雑誌と新刊の文学書類ほとんどに眼を通していられるから、無知な私には、N氏からこぼれおちる断片はみな滋養になった。「先生は会社でお仕事そっちのけで本ばかり読んでいらつしやるのでしょう」というと「そうですよ」と笑いながらいわれた。後に友人が、N氏は会社では大そう厳しい事業家だと教えた。バーの勘定などもそのつど払っていられた。

N氏の滋顔には日本的な感傷の翳がない。子供はいらないからつくらなかつたといい、ブライベートな話題とは縁がなかった。一度だけ、若い時オーストラリアで過した、その地の女性が「夫も子供もすてて後から日本にきた。しかし横浜で、関東大震災で死なせてかわいそうなことをした」と、前夫人のことをふと洩らされた。それで私は、例の三十年を思いあわせた。

神戸の魅力を、洗練された明るさと自由だとすれば、それはやはり、明治以来、この町が西欧文明の大玄関であった伝統のせいだ。そして、その文明の精神としての合理主義や個人主義を正しくうけとめた人たちがあったからだ。今なお神戸には、その流れをくむ風格ある男性たちが、この町を愛し住みついている。立派な職業人でありながら、一方で好きな道に凝り、その方でも中央のあやしげな権威などの上をゆく、こわく心にくい先生もいらつしやる。

そのような意味で、先年癌で亡くなられた仲郷三郎氏は典型的な神戸ボーイであった。祥福寺の告別式で「生涯したいことをしたあげく、癌とも疑わず、全快を信じながら、さっさと逝った」とお仲間の方たちに羨まれていた。

★神戸の文化をすすめるキャンペーン

官僚主義

排除の

美術館運営を

小島輝正

神戸大学教授

自慢にならないが、造形芸術のことは私によく分らない。絵心のようなものは私にないし、美術展のようなもの、ほとんどいいほど足を運んだことがないだから、県立美術館のことについて発言する資格は私にはなさそうに思う。

しかし、私も兵庫県にもう一六年余りも住み、その間、背筋が寒くなるほどの県民税をびた一文欠かさず払い続けたきた人間であるから、その税金で建つ（のだからと思うが）美術館については、一介のしろ、うとしても注文をつける権利があるだろう。

まず、その美術館なるものの運営については一切の官僚主義を排除してもらいたい。美術館の運営というところが、どういう内容をもっているものか私は知らないけれども、それがどういふ内容をもっているものにせよ、である。高級優雅なる絵画を人民どもに拝ませ

てやるのだ、有難く拝見しろ、という気配のあるようなものには決してしてもらいたくない。役人というものは、どんな仕事をさせても、そういう根性を発揮したがるものであるから、その点をだれかが厳重に監視しておく必要がある。国家にせよ、地方自治体にせよ、国民なり自治体住民なりの金で建物をつくったり、道路をつくったりしながら、つくったものは人民に恩をきせて売りつけるくせがあるから、これはよほど気をつけなければならぬ。そういう点では、申訳ないが、私は役人というものを全く信用していない。

先日、愛知県犬山の博物館明治村なるものにいった。行くまでよく知らなかったのだが、こゝは、民間会社の運営である。そのおかげか、全体に、お役所風な臭味が全くない。建物の中に陳列してある物や絵、写真などのたぐいも背後から監視人ににらまれているという意識なしに心ゆくまで眺めることができた。第一、監視人がいないのである。それが大変気持ちよかった。

つぎに、美術館には、ギャラリーだけでなく、建物の周囲をこめて、それ以外の設備を十分に配慮

してもらいたい。多分できない相談だろうが、たとえば美術ライブラリーのようなものができれば結構だ。そこへ行けば、古今東西の著名な絵を、スライドでうつしてみられる、というような。さらには、美術関係の図書が、画集だけでなく、著名な画家の伝記などをふくめて豊富にそろっているというような。とにかく、美術にかかわることはどんなことでもそこにいけば分るというような、美術センターのようなものになれば大変結構だと思う。どうせつくるのなら、みみっちくまとまったものをつくってしまわずに、未来にむけての雄大な構想とビジョンをもったのをつくってもらいたい。そのためには、場所も、どうせ土地の少い市街地の真中でなく、今は少々不便でも、広々とした、余裕のある敷地をえらんでもいい。その点でも犬山の明治村はいい参考になるだろう。あれは、実に広大なものである。



夢の美術館

白髪 一雄

具体美術協会々員

高速地下鉄三宮駅降車場から、ベルトコンベア道路山手線に乗りこむと、座席の前にある地図の上の「県立美術館」のところで矢印をダイヤルの操作で持ってゆき私は眠りこんでしまった。ずっと前から眠くてしかたがなくて、辛棒しながらここまでできたがついにまぶたがあかなくなってしまうた。

やがて実際の音はしないのに音波のようなもので自然と眠りから覚めると美術館のある山の頂上に着いていた。美術館だけではないが近頃は昔あった四角い広いガラス窓の建築物はほとんど見なくなつた。美術館の建物は窓一つないうねりくねつた白い真珠色の壁が不思議な曲線を描いて空に立ちのぼり、屋根とも破風ともつかない玉虫色に輝くものがその上をおおっている。入口で驚くことはドアがないことで、これでも完全に外部の空気はシャットアウトされて

いることだ。どんな気体もこのドアから中に入ることはできない。これは人間でも午後五時をすぎると入ることができなくなる。ある装置によってあらゆるものがシャットアウトされてしまうのである。

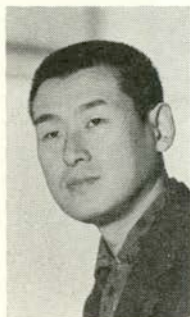
さて部屋の内部は壁も天井も床もちつともその実在感がない、ただ列んでいる作品と部屋のムードがあるだけである。この最初の部屋は常設の古い名画がかかっている、落着いた光線が部屋を照らしているが光源はどこにあるのかわかることはできない。この照明だけでなく話によるとこの建物の吸塵装置と湿度調節装置は日本の美術館の中で屈指のものだそう。発光体そのものが部屋全体の壁や天井に塗りつけられているがそれをボタンの装置一つでいろいろのムードの光線状態に変えられるのである。ダリの絵を中心にかけてある次の部屋ではどういふことか壁も天井も床も真暗で、作品だけが不思議な光を発して並んでいる。

ごく最近の傾向の作品が陳列してある部屋は最も観て面白いと思う。壁面にかけられた平面作品は非常に楽にとりつけられるのだそう、思った位置に思った角度に吸いつくようにつけられる。オブ

ジェのような立体作品は一本の足もなく宙に浮かんで配置してある。いかに重量のあるものでも空中に浮かせられるのである。少し前だったら魔法のように人々は思つたであらうが今は誰も驚かない。もうすぐ水中部屋というのができるそうだが水もないのに水の中にいるような感覚になり、そこに入れる作品を何人かの作家が作っているとか聞く、これはこの美術館が世界で最初に手がける仕事だそう。

さてこれも今研究中とのことだが、やがて美術館の一番高いところから電波のような実際の耳では聞くことのできない不思議なリズムが町に流され、それに反応した人達は美術館にやってきて美術を見なくなるのだそう。これができ上ると観賞者がふえ愛好家も多くなることだろう。

これから新しい芸術が生まれるとともに美術館も大きく変貌してゆくだろう。





★ある集いⅡその足あと

日本画を愛する

「ちぬの会」

石井 馨 ハグラビヤ七頁参照

「ちぬの会」は昭和四十年五月に発足したばかりの日本画を愛好し研究してゆこうとする仲間によって結成した会です。やっと生れたばかりでとやかくいえる資格もないし、その段階にいたっておりません。これからどのように進展して行くかは会員ひとりひとりの心構えにかかっています。私も会員のひとりとしてその責任を感じています。大きい看板をかかげたりむつかしい規約を作って発足する会もあれば、極めて地道に目立

たないで内容を充実していく会もある。「ちぬの会」はむしろ後者に属するものといえるでしょう。もっともこの会が生れるまでには

火曜会（昇外義によって指導）楠美会（石井馨によって指導）つくし会（石井・昇によって指導）など七・八年に亘って研究を重ねてきた人達、いわば日本画の基礎はそなわっている人、制作の経験を重ねた人達であって、これらの会の発展的解消が「ちぬの会」というものとなって生れてきたものです。何事も一朝一夕にはできないように、特に日本画の世界にあってはむつかしいことばかりで目立った進展は望めないし、またそうしたことを望むこと自体が間違っていることさえあります。西洋画に比べ日本画は材とのこなし（日本紙、絹、毛筆、岩絵具、胡粉、金、銀泥、箔など）がむつかしく、入りにくいけれど一度この世界に入れば容易に放れられない魅力が湧いてきます。こんな体験を肌で感じとってきた人、感じとろうと努力している人の集いだといえるでしょう。第一回「ちぬの会」展覧会は昭和四十年八月国際会館で開催、引続き二回展を十二月にK・C・Cホールで開いた。第一回展後、昨年九月には京都の西山英雄氏を招き批評会と日本画制作上の心構えというようなお話を聞く会を持ち

ました。ちゃんとした職業を持った人の会であるだけに純粹に芸術を掘り下げている西山先生の話は深い感銘をあたえ、人生はどんな職業についても偉大なる芸術家、哲学者の心を汲みとって行かねばならないし、生涯の価値もそうしたところにあるように思いました。また二回展には京都の浜田親氏を迎えK・C・C会場で自作を前にしての批評をお願いし、これまた西山先生同様大いに勉強になりました。人間は誰でも目先の欲に走り易いし、得とか損とかでウエイトのかけ方が違ったりすることがあります。絵を描く気持はこれではいけない、あくまでも大自然に卒直に接しおらかな気持で感動を把握していかなければならない。物を正しく見、美しく感じとって行くところに価値を見出したいと思うのです。本年三月には第三回展を元町みなせ画廊で持ちましたこのようにわずか一年足らずで三回までも展覧会を持つことができました。これも各自が表現能力とともにいかに余暇を善用したかともいえます。チャールズは「描く楽しさ」という冊子に名文の数々を綴っているが、心の糧となるものをいつまでも続けたいもの。月二回の研究日にどんな写生が、制作が見られるかその日の訪れが待ち遠しいのです。 八日本画家

さんちかタウン1周年記念

ありがとう！満1才になりました

10月1日～10日

エキゾチックなKOBÉの街も秋です。

明るいさんちかタウンも一周年を迎えました。神戸っ子の皆さまに愛されて一年。感謝をこめて記念の催し・セールをいたします。

◎さんちか一周年記念催し
スポーツ関係サイン会★芸能人サイン会
さんちかモデル利用撮影会★さんちか献血友の会
結成★さんちか写真コンクール

◎さんちか一周年記念 謝恩セール
全店謝恩粗品つきセール★全店特選品奉仕セール



サロン★タウン
ファンシータウン★ハイモードタウン
メンズタウン★レディスタウン
ファミリータウン★スイーツタウン
珍味街★味ののれん街

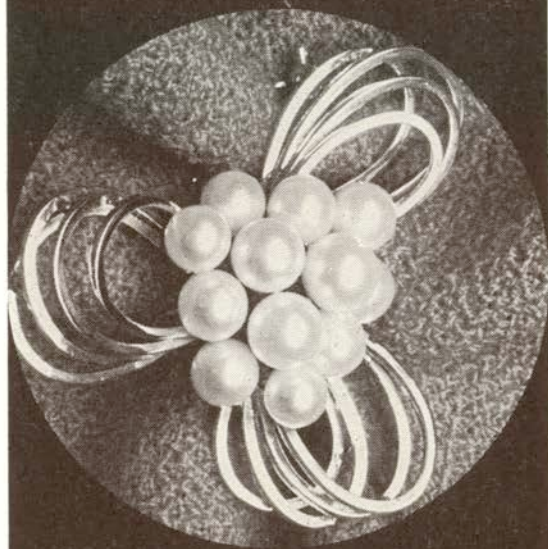


Santica Town
さんちかタウン

営業時間/AM.10時→PM9時 味ののれん街サロントウンはPM10時まで
定休日/毎月第3水曜日

Kitamura Pearls

世界の人々に愛される
キタムラパール



北村真珠株式会社

神戸：元町店 TEL ③③ 0072

東京：スキヤ橋店 TEL<571>8032

晴れの日の

ウェディングケーキ



北 欧 の 銘 菓

ユーハイム
コンフェクト

本社・工場 / 神戸熊内町1丁目 TEL22-1164・9865

熊内店 / (市立美術館東隣)

三宮店 / 神戸三宮生田筋(階上喫茶室) TEL33-7343・0156-4314

神戸デパート店 / 長田区大橋5丁目 TEL 61-2101

甲子園店 / 国鉄甲子園口駅(北口)・芦屋店 / 国鉄芦屋駅南通・堂島

営業所 / 大阪堂島中町ビル地階・梅田店 / 大阪梅田地下センター・

栄町店 / 名古屋栄町ビル地階・千種工場 / 名古屋千種区若水町・大

丸店 / 神戸・京都・阪急店 / 神戸・大阪・三越店 / 神戸・丸栄店 /

名古屋・オリエンタル中村 / 名古屋・大阪国際空港・神戸鉄道弘済

会・丸物店 / 岐阜・豊橋